

上本川まいたけモデル

【主な取組の経緯】

<H26年度>

H26.9
小規模・高齢地区における集落活動センター立ち上げの検討

H26.10
中央西林業事務所に栽培指導を依頼

H26.12
先進地(徳島県阿波町)視察

H27.2
栽培技術習得に向けた試験栽培を開始

<H27年度>

試験栽培の実施

H27.9
原木まいたけの収穫祭「まいなばざんまいツアー」を開催(約100人が参加)

H28.1
森林技術センターでの食用きのこ栽培技術研修

H28.3
集落活動センター「氷室の里」開所

<H28年度>

試験栽培の継続実施 目標生産・販売量 260kg

H28.6
販売支援を目的とした都市部の応援団「越裏門寺川まち支部」を設立(会員約10人)

H28.6~
集落活動センター事業を活用して大量生産に向けた拠点施設の整備の開始

H28.7~8
「氷室まつり」等で原木まいたけ栽培キットを販売

H28.9
「まいなばざんまいツアー」を開催

H28.10
栽培拠点施設落成
拠点施設において原木まいたけ及びはたけしめじの試験栽培を開始

【課題】

- ◆生産、販売、流通体制確立へのきめ細やかな指導
- ◆きのこに関する専門知識を持った人材の育成
- ◆生産量増加に伴う販路拡大及び加工品開発



【目指す姿】

- ◆越裏門・寺川地区を「きのこの里」として広くPR
- ◆食用きのこの複合栽培により、平成31年度には1,000万円/年の収入、専任従事者1名雇用を目指す

特用林産推進チーム

ロールモデルの普及

シキミ・サカキ部会

その他

これまでの取り組み

【特用林産推進チーム会】 第1回～第5回(4/26～1/26)

- ◆中山間地域対策本部に關係部局(林業振興・環境部、農業振興部、産業振興部)の連携による特用林産推進チームを設置
(目的)集落活動センターの収益事業につながる特用林産の生産、販売事業の展開に向けて、關係情報の収集、提供等の支援

- 林業振興・環境部、農業振興部が連携して、シキミ・サカキについて重点的に取り組むことを確認
- 一層・二層との連携、シキミ・サカキ以外の特用林産物の展開の可能性の検討
- 地域本部との情報共有のあり方の確認
- 地域本部の参画による具体的な取り組み事例の掘り起こし

<取り組み検討事例>

- ・馬路村魚梁瀬(安芸):天然シキミ・サカキの集出荷
- ・平山地区、神池地区(物部川):サカキの集出荷
- ・鏡(高知市):イタドリ栽培の推進と活用
- ・西峯(嶺北):冷涼な気候に合った山菜類の栽培
- ・長者(仁淀川):棚田への景観作物や特用林産物の導入
- ・郷(高幡):自生する山野草の活用(薬膳料理、栽培、販売)
- ・三原村(幡多):クヌギの樹皮等の新たな活用方策の検討 など

【シキミ・サカキ部会】 シキミ・サカキ部会の開催(H28.6～H29.1月 林業事務所単位で開催)

林業事務所単位で林業事務所が主体となり、農業振興センター、JAで組織するシキミ・サカキ部会を設置
(目的)現状調査、生産支援、技術支援、集落活動センターの参画の可能性の模索、モデル園を設定。また、モデル園をロールモデルとして生産地の拡大・生産者の増加を目指す。

(生産状況)全国での本県生産量 シキミ:第4位 サカキ:第3位

【活動内容】

(1)各林業事務所で、シキミ・サカキの現地及び生産者調査及びモデル園設置に向けた取組

- (見えてきた課題)
- ①高齢化による生産者の減少
 - ②栽培放棄地の拡大
- ★有用な資源は豊富にあるものの管理が行き届かず品質が低下。生産規模も零細。

(対応策)

- ①品質向上に向けた森林技術センター等による生産技術支援
- ②営農組織や集落活動センターを活用した共同作業の促進

(2)研修、講習会の開催

- ①花木類・シキミ・サカキ研修会(7/5)
- ②技術職員等専門研修「シキミ・サカキの栽培技術」(7/11)
- ③林業学校短期課程「シキミ・サカキ初級編」の開催(9/7～9)
- ④林業学校短期課程「シキミ・サカキ中級編」の開催(9/26～29)

◆特用林産物に関する研修会の開催

きのこの栽培研修(9/2)

◆楮・みつまたの現状把握のための聞き取り調査(JA、原料商)

- (見えてきた課題)
- ①需要減や安い外国産原料の輸入による県内生産者の減少
 - ②生産者の高齢化、承継者不足
 - ③へぐり作業の技術の伝承 ④シカによる食害被害 など

今後の取り組み

【特用林産推進チーム会】

- ◆取り組み検討事例についての具体化
- ◆試行的取組の実施
- ◆新たな検討事例の掘り起こし

◆内容

- 地域本部の参画のもと、集落活動センターと連携した取り組みを検討
- 地域特性に応じた特用林産物の新たな活用方法や販売戦略なども含めた検討
- 必要に応じて専門アドバイザーの派遣等による支援

⇒集落活動センターを核とした特用林産物の生産、加工事業等の取り組みの展開

<H29年度の主な関連事業>

- ・地域林業総合支援事業による特用林産事業の支援(木材産業振興課)
- ・サカキ・シキミの栽培技術向上に関する研究(森林技術センター)
- ・食用きのこ栽培技術確立に関する研究(森林技術センター)
- ・県外の流通関係者を招いた花木類等研修会の開催による有望品目の掘り起こし(産地・流通支援課)
- ・アドバイザー制度の活用による専門家の派遣(中山間地域対策課)

【シキミ・サカキ部会】 シキミ・サカキ部会の開催

- ・安定した収益性が見込まれるモデル園の整備に向けた検討
- ・集落活動センター(地域本部)との協議
※生産地(生産者)と集活センターとのマッチング(収穫、荷造り作業等)



- ・生産・加工施設に対する支援(補助事業の活用)を検討

【活動内容】

◆各林業事務所でシキミ・サカキの生産者を支援

- ・日南シキミ園:室戸市の病害虫の駆除に対する取り組み(安芸)
- ・新規参入候補者に対する栽培・流通等に対する指導(中央東)
- ・地区単位で、共同出荷等の検討(嶺北)
- ・集落活動センター(四万十町中津川)での植栽候補地の検討(須崎)
- ・モデル園設定に向けた候補地調査(須崎)
- ・優良生産者との連携を模索(幡多)

【関連事業】

◆森林技術センターにおける活動

- ・サカキ栽培マニュアルの作成
(シキミ・サカキ病虫害防除マニュアル、シキミの栽培技術指針は作成済み)
- ・シキミ・サカキの優良系統の選抜方法の研究

◆楮・みつまた

【今後の対応方針】

- ・特に生産面での技術支援に関して、特用林産推進チームとして支援の在り方を検討。
- ・仁淀川地域のアクションプラン「土佐和紙の販売促進と保存・継承」や集落活動センターとの連携も含めて今後の展開を検討。

西峯コンテナ苗モデル

【経緯】

H26.4

新聞掲載のコンテナ苗関連の記事をきっかけに西峯地区でのコンテナ苗生産の検討を開始

H26.10

コンテナ苗生産についての勉強会を実施(森林技術センター、木材増産推進課参加)

H26.11

森林技術センター主催の現地検討会に参加し、生産現場の視察を行う

H27.3

・林業種苗生産者講習を受講し、生産者登録を行う
・西峯地区活性化推進委員会を設立し、産業部会としてコンテナ苗試験生産開始を決定

【取り組み内容】

<H27年度>

H27.4~

コンテナ苗(スギ)2千本の試験栽培を開始、県森林技術センター等が技術指導等を実施(9回)

H28.2

販路確保のため高知県種苗緑化協同組合(以下「県苗組」)に加入

<H28年度>

H28.4~

・県森林技術センターが試験生産の状況を確認
・引き続き、本格生産に向けた指導を継続

H28.6

・大豊町からの地方創生加速化交付金による支援を受け、コンテナ苗2万本の生産体制を整備
・コンテナへ幼苗を移植し、次年度の出荷に向け育苗中

H28.8

・移植した幼苗の一部に生育不良があったため、追加播種を実施

H28.11

・1,050本の規格適合苗を県苗組が確認

H29.2

・苗木の供給方法について関係者と調整中



【課題】

- ◆生産歩留まりの向上に向けた生産技術の継続指導
- ◆コンテナ苗の需要拡大に向けた現地検討会などの取り組みの実施

【目指す姿】

- ◆安定的な生産体制の構築

これまでの取り組み

梅ノ木ファームの取り組み

ロールモデルの普及

○高知市鏡地区梅ノ木ファームのコンテナ苗生産の検討

【主な取り組み内容】(平成28年度)

(1)コンテナ苗勉強会の開催

(7/12 生産者7名、県林業振興・環境部、地域本部、高知市)
(内容)

- ・苗木生産の状況、苗木需給の状況、国の補助制度、高知市の支援体制、林業種苗法の概要など

(2)苗木需給のリサーチ等(訪問先:県苗組他)

(8/16 県林業振興・環境部、地域本部、高知市)
(内容)

- ・主なコンテナ苗需要者(四国森林管理署)の動向
- ・新規生産者への協力体制
- ・既存生産者からの聞き取り

(3)県苗組との協議(9/5)

(4)先進地視察(香美市生産者)(9/5)

(5)試験栽培地の選定(9/12)

(6)生産資材の調達(コンテナ、肥料等)(12月)



7/12勉強会



9/5視察



9/12試験地の選定

今後の取り組み

○高知市鏡地区梅ノ木ファームのコンテナ苗生産の試行

【主な取り組み内容】

(1)生産技術出前指導(森林技術センター)(2ヶ月に1回程度)

(2)生産者講習・登録(本庁)(H29.3)

(3)試験栽培開始(H29.4~)規模:約1万本



コンテナ苗の幼苗



梱包されたコンテナ苗



生産施設

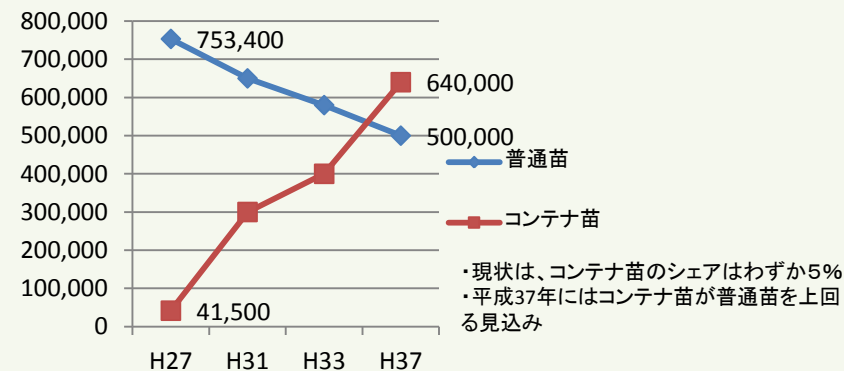


種苗生産者講習

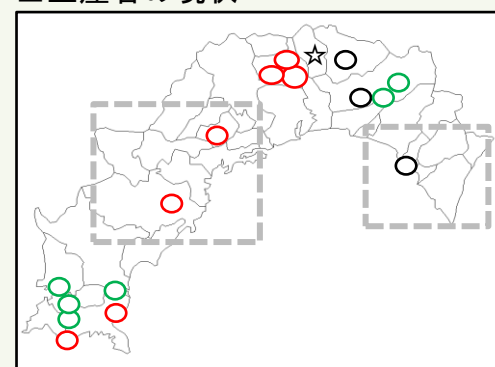
(参考)コンテナ苗の普及拡大に向けての取り組み状況等

■苗木仕様別生産量の現状と将来

※県産振計画の再造林目標面積に伴う苗木生産量の推移(皆伐後の再造林率50%に設定)



■生産者の現状



黒...コンテナのみ 3名 赤...普通のみ 7名 緑...コンテナ+普通 6名

☆企業型生産体制の整備

～本山町に整備中～

【事業の概要】

- ・敷地面積:約4千m²
- ・育苗棟(最大30万本規模)
- ・養生施設(同上)
- ・管理棟

【今後の予定】

- ・平成29年度:4月生産開始
- ・平成30年度:上半期出荷5万本。
- ・平成31年度:順次増産予定



■低コスト造林に向けた産学官連携による共同研究

(独)森林総合研究所が事務局となって、民間企業、九州大学、高知県森林技術センター他が連携し、低コスト造林システムの構築に向けた研究・開発を行うコンソーシアムを平成28年4月に設立。

【平成28年度の主な取り組み】

- ・苗木生産の低コスト化に関する研究(H28.4~H29.3)
- (小型プラグ苗播種試験、先進地視察など)

【平成29年度の取り組み予定】

- ・苗木生産の低コスト化に関する研究(継続)

■低コスト造林の普及に向けた取り組み

【高知県】

- ・コンテナ苗普及のための関係者(四国森林管理局、森林組合、森林所有者等)を交えた現地研修会の開催
- ・伐採から植栽までの一貫作業システム推進のための仕組みづくりの検討
- ・コンテナ苗生産の出前講座の開催

【県苗組】

- ・森林組合等へのコンテナ苗のPR

■高知県の種苗生産体制整備

【種子の確保】

- ・採種園の管理
- ・種子の採取

【苗木施設整備】

- ・コンテナ苗生産施設整備への支援

【人づくり】

- ・種苗生産者講習

～H29コンテナ苗生産施設の支援概要～

- ・予算額:4,185千円
- ・事業者:高知県種苗緑化協同組合
- ・コンテナ:6,000枚
- ・肥料等:一式

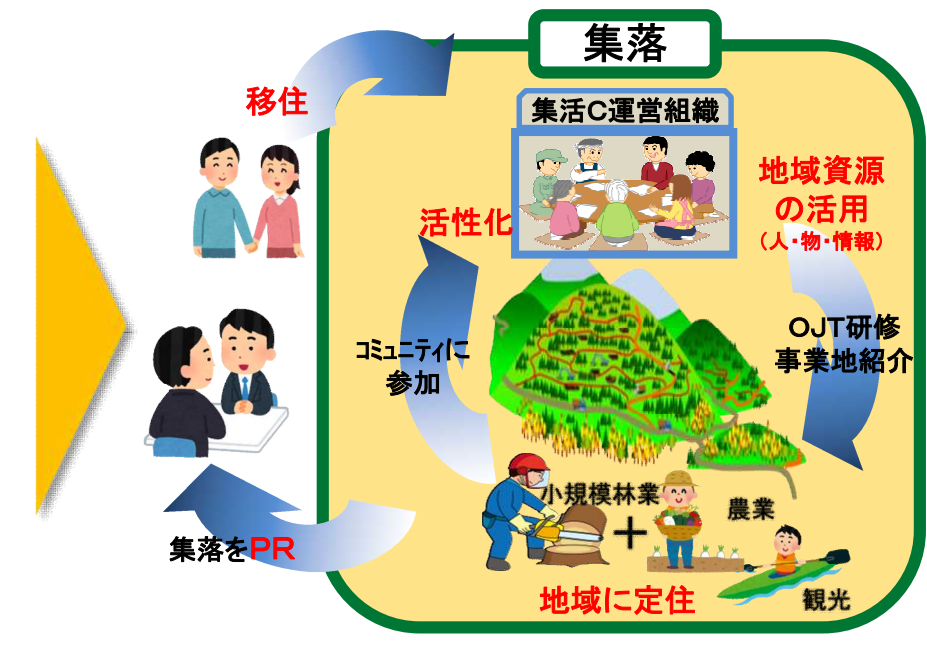
集落活動センターにおける林業分野の展開(集落営林)

<課題>

- ①事業地の確保
- ②技術の習得
- ③安全対策
- ④人材の確保
- ⑤収益性の確保

<平成29年度の主な関連施策>

- ・事業地確保のための林地集約化への支援
・森林情報管理システム(森林GIS)の充実
- ・林業学校 短期課程での知識・技術の講習
・副業型林家育成のための現地研修開催への支援
- ・実践現場への技術アドバイザーの派遣
・安全防具、蜂刺され対策、傷害保険加入への支援、安全パトロール
- ・小規模林業推進協議会の活動支援
・林業体験ツアー開催への支援、フォレストスクールの開催
- ・林業機械レンタル、作業道開設、搬出間伐への支援
・活動事例の収集と発信



個別事例

これまでの取り組み

今後の取り組み

- ◆**土佐町** [集落活動センター関係者等との意見交換：2回（5/11、8/22）]
 (1)人材育成研修の試行的実施
 ・林業学校短期課程（可搬式林業機械、メンテナンス）：1回（1/16-20、1/24）
 ・副業型林家育成のための実践研修：【集活C】1回（1/23、25、26）
 (2)木の家プロジェクト
 ・地域産材活用の移住用お試し住宅を兼ねた木造モデル住宅建設：1棟（1月完成）
- ◆**本山町** [集落活動センター関係者等との意見交換：1回（5/11）]
 (1)人材の確保、育成
 副業型林家育成のための実践研修：【山番LLP】2回延べ27人（8/10-12、11/19-20:7人）
 (2)事業地確保のための林地の集約化：【山番LLP】10ha（木能津地区5ha、南山地区5ha）
- ◆**佐川町** [地域住民等との意見交換：2回（7/29、8/22）]
 (1)人材の確保、育成
 副業型林家育成のための実践研修：【町】2回延べ41人(11/5-6、12/17-18)、(2/13-14予定)
 (2)事業地確保のための林地の集約化：【町】29ha（斗賀野地区）
- ◆**いの町**
 (1)事業地確保のための林地の集約化：【林業ワークショップ組合】10ha（毛田地区）
- ◆**宿毛市**
 (1)人材の確保、育成
 副業型林家育成のための実践研修：【市】3回延べ22人（11/12、11/19-20、1/14-15）
 (2/4-5、2/18-19、3/5 予定)
- ◆**小規模林業推進協議会**
 (1)協議会の開催 第1・2回 延べ151人参加（7/2、10/29）、第3回（3/12予定）
 (2)会員の活動内容アンケート 1回 124人/300人（41.3%）
 (3)会員数 366人（H29.1月末）
- ◆**その他**
 (1)林業体験ツアーの開催 2回延べ10人（9/30～10/3幡多、10/14～10/16嶺北）
 (2/3～2/6幡多、2/11～2/12嶺北 予定)

- ◆**土佐町** [集落活動センターいしはらの里を中心に人材育成事業を展開]
 (1)人材育成研修の実施
 ・林業学校との連携や農林業インターンシップの受け入れ等も含めた研修の体制づくり
 ・林業体験ツアーや副業型林家育成のための実践研修：【集活C】各1回予定
 (2)木の家プロジェクト
 ・完成した木造モデル住宅を移住希望者や農林業インターンシップ生の短期滞在に貸し出し。さらに1棟建設
- ◆**本山町** [町が地域おこし協力隊OBで構成する団体の活動を支援]
 (1)人材の確保、育成
 ・副業型林家育成のための実践研修：【山番LLP】2回予定
 (2)事業地確保のための林地の集約化：【山番LLP】10ha予定（木能津地区、本山地区）
 ・集落活動センター汗見川のエリア内での集約化は、今後の事業の進捗状況を見極めながら検討
- ◆**佐川町** [町が主体となって副業型林家育成や事業地確保、地域おこし協力隊の林業での定住]
 (1)人材の確保、育成
 ・副業型林家育成のための実践研修：【町】12回予定
 (2)事業地確保のための林地の集約化：【町】29ha予定（斗賀野地区）、森林ICTプラットフォーム
- ◆**いの町** [町が小規模林業者で組織する団体の活動を支援]
 (1)事業地確保のための林地の集約化：【林業ワークショップ組合】10ha予定
- ◆**宿毛市** [市が主体となって副業型林家を育成し、小規模林業実践者を拡大]
 (1)人材の育成、確保
 ・副業型林家育成のための実践研修：【市】6回予定
 (すくも森林塾)
- ◆**小規模林業推進協議会**
 (1)協議会の開催 3回予定
 (2)会員の活動内容アンケート 1回予定
 (3)活動事例等を取材し、ホームページの記事を充実させるなど情報発信を強化
- ◆**その他**
 (1)林業体験ツアー実施後のフォロー
 ・関係団体と連携してツアー参加者へのフォローを実施

1. 中山間地域における生産活動等への支援

◆森林の集約化への支援

- ・森林整備地域活動支援交付金 65,613千円 **拡充**
森林経営計画の作成等に要する経費に対して支援を行う。
※森林境界の測量に要する経費への支援を追加。

◆生産活動への支援

- ・緊急間伐総合支援事業費補助金 91,200千円
森林の公益的機能を高めるとともに、森林資源の質的充実を計画的に推進するため、未整備のまま高齢林へと移行している人工林の間伐を緊急的に行う。
- ・原木増産推進事業費補助金(自伐林家等林業機械レンタル) 4,700千円
自伐林家等の小規模林業の実践者が行う林業機械のレンタル等に対する支援を行う。
- ・地域林業総合支援事業費補助金 10,000千円 **拡充**
地域林業の活性化を目的として、事業主体が自らの発想で提案する事業等に対して支援を行う。
※シキミ・サカキの植栽等に対する定額補助を新設。

ロールモデル(特用林産)関連予算

- ・特用林産物活用施設等整備事業費補助金 63,247千円 **新規**
特用林産物の生産施設の整備に対して支援を行う。



ロールモデル(特用林産)関連予算

- ・林業試験研究費 688千円 **拡充**
ロールモデル(特用林産)関連予算
食用きのこ栽培技術確立に関する研究、シキミ・サカキの栽培技術向上に関する研究等を行う。

- ・林業・木材産業改善資金貸付金 100,000千円
林業従事者等が経営の改善等に取り組むための資金を無利子で貸し付ける。
- ・コンテナ苗生産基盤施設等整備事業費補助金 4,185千円



ロールモデル(コンテナ苗)関連予算

- ・コンテナ苗を低コストで大量に供給するための生産施設、機械等の整備に対する支援を行う。

◆都市との交流支援

- ・こうち山の日推進事業費補助金 11,563千円
「こうち山の日」に関する普及啓発事業に取り組む団体等に対する支援を行う。
- ・森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金 15,558千円 **新規**
国の森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動の実施に必要な機材等の整備に対する支援を行う。

◆木質バイオマス利用施設整備への支援

- ・木質資源利用促進事業費補助金 52,362千円
木質バイオマスボイラーの導入経費等に対する支援を行う。

◆施設整備等への支援

- ・木造公共施設等整備事業費補助金(集落活動センター施設関係) 10,861千円
木材利用を推進するため、木造公共施設等の整備に対して支援を行う。
- ・木の香るまちづくり推進事業費補助金 33,000千円
県産材を活用した公共的施設等の整備に対して支援を行う。

2. 中山間の未来を担う人材の育成・確保

◆林業労働力の確保・育成支援

- ・林業労働力確保支援センター事業費補助金 40,161千円 **拡充**
林業労働力確保支援センターを中核とした林業労働力の確保、育成を図るための総合的な対策を実施する。
※林業労働力確保支援センターの窓口機能の強化と林業就業希望者に対する受け皿の充実を図る。
- ・林業学校運営費 688,813千円(H28.2補正前倒し分含む)
林業学校の運営を行うとともに、校舎及び大型実習棟の新設工事等を実施する。
- ・林業学校研修費 124,118千円
林業学校において、森林及び林業に関する知識や技術を習得するための研修を実施する。
また、研修生が安心して研修に専念できるよう給付金を支給する。



◆小規模林業の推進

- ・小規模林業推進総合支援事業費補助金 6,700千円
ロールモデル(集落営林)関連予算
新たな小規模林業の実施者やNPOに対し、実践的な技術研修の開催等に要する経費を市町村が助成する場合、経費の一部を助成する。
- ・林業実践アドバイザー派遣等事業費補助金 4,483千円
小規模林業の実施者からの要請に応じ、現場指導ができる林業実践アドバイザー派遣に要する経費の助成や、小規模林業実践者の現場の安全点検バトロールを実施し、林業技術者や安全意識の向上を図る。

◆就業支援

- ・特用林産業新規就業者支援事業費補助金 27,450千円
ロールモデル(特用林産)関連予算
特用林産業に新規に携わる方に対し、生産技術を習得するための研修助成金を市町村が支給する場合、経費の一部を補助する。さらに、市町村が研修指導者に支給する謝金に対して補助する。



3. 鳥獣被害対策

◆シカ被害対策等への支援

- ・森林資源再生支援事業費補助金 55,665千円
森林資源を再生させることにより、公益的機能を高めるとともに、質的充実を図っていくため、伐採跡地の再造林及び再造林と一体となって実施する附帯施設等整備(シカ被害防護ネット、防護カバー、電気柵)及び下刈りに対して支援を行う。